

今日のトピック 米国のGDP成長率(2014年7-9月期速報値) 内需の底強い成長が持続

ポイント1 市場予想を上回る+3.5%

順調な景気回復が進展

■10月30日に発表された米国の7-9月期の実質GDP成長率(速報値)は前期比年率+3.5%と、市場予想の同+3.0%(ブルームバーグ集計)を上回りました。

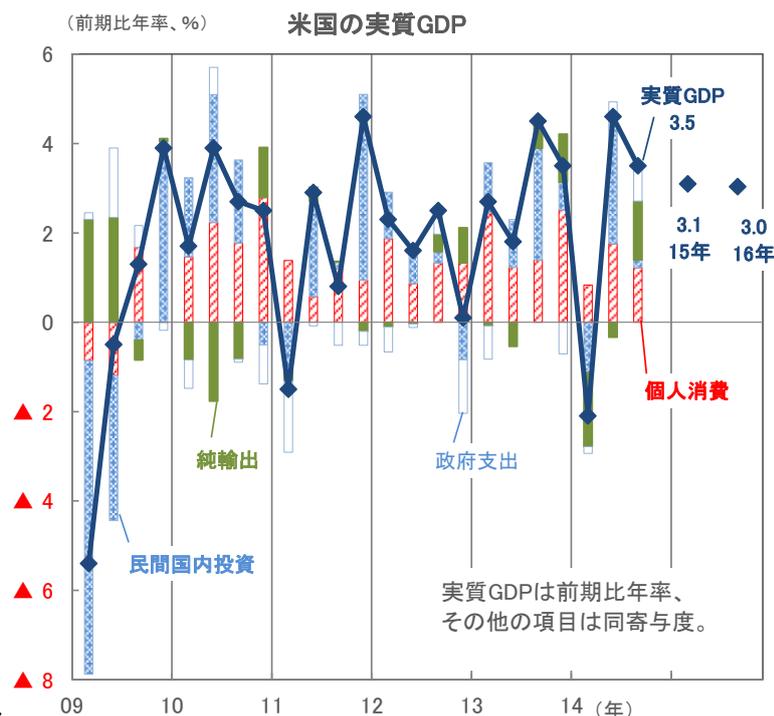
■1-3月期は寒波の影響などからマイナス成長になりましたが、その後は2期続けて順調に回復していることが確認されました。

ポイント2 消費、投資ともに底強く推移

純輸出の寄与がプラスに転換

■需要項目別にみると、個人消費が前期比年率+1.8%と、反動増が大きかった前期の同+2.5%から低下したものの底強く推移しました。特に、耐久財が同+7.2%と堅調です。民間国内投資も同様に前期から減速しましたが、住宅を除く設備投資は同+5.5%とこちらも底堅さを維持しました。

■輸出は同+11.0%と二桁の成長を維持した一方、輸入は同▲1.7%とマイナスに転じ、その結果、純輸出(輸出マイナス輸入)は比較的大きなプラス寄与に転換しました。7-9月期のGDP成長率全体への寄与としては、最大の項目となりました。



(注) データは2009年1-3月期～2014年7-9月期。民間国内投資には住宅投資を含む。2015年、2016年はIMFの予想(前年比、2014年10月時点)。(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 2015年以降も年+3%前後の底強い成長へ

■7-9月期の政府支出は、防衛関連の大幅増加により前期比年率+4.6%と、リーマン・ショック後の景気後退に対応していた2009年4-6月期以来の高い伸びとなりました。2010年以降は政府部門はほぼ一貫して成長率にマイナス寄与でしたが、今後は、歳出削減などによる景気抑制効果は収束する方向と見られます。

■来年に向けても、雇用・所得環境や企業業績の改善に支えられ、消費、投資ともに底強く推移する見込みです。足元で伸び悩んでいる住宅部門についても、所得の回復と低金利が押し上げると考えられます。全体としては年+3%前後の底強い成長が持続する見通しです。

ここも
チェック!

2014年10月30日【デイリー No.1,980】米国の金融政策(2014年10月)

2014年10月08日【デイリー No.1,965】IMFの世界経済見通し(2014年10月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。